1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795700014		
法人名	社会福祉法人 憲寿会		
事業所名	グループホームときわ苑		
所在地	沖縄県島尻郡八重瀬町字当銘370-1		
自己評価作成日	令和6年 9月24日	評価結果市町村受理日	令和7年 1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&KajiyosyoCd=4795700014-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和6年 10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、母体施設の特別養護老人ホーム、各種サービス事業所を隣接しており、合同行事であるハーレー見物(職員がこぎ手として参加)、ゲートボール大会、納涼祭り(フィナーレは花火)、クリスマス望年会(ときわ東保育園園児との交流)、新春沖縄縄断駅伝の開催を通して利用者様やご家族、職員、地域住民とのふれあい、交流できる場や機会を充実に取り組んできました。グループホームときわ苑は季節に即した諸行事(初詣、桜見物ドライブ、敬老の日、父の日、母の日、誕生会等)や、職員が共同して利用者様の趣味嗜好に応じた作品作りに積極的に取り組んでいます。完成した作品を共用スペースに展示することで自信や満足感に繋がっているものだと思います。当事業所職員一同は介護理念「尊敬を大切に 暮らしやすい環境の下 悠々と温々と今日ん あなたらしさを 支援致します」の実践に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

南部の集落の中に建つ当事業所は、特別養護老人ホームや訪問介護事業所等多数の介護サービスを展開している法人施設に隣接しており、開設17年余りが経過している。運営推進会議の定期的な開催を通して、利用者の現状や事業所の取り組み、利用者や家族等の要望に対する対応結果等を丁寧に報告するとともに、毎回写真付きの資料も添えて利用者の暮らしや表情を紹介して運営の透明性を図りつつ、行政職員や知見者、地域代表等と意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。職員は理念の、利用者の「尊敬を大切に」を基本とし、「第2のお家」として利用者が家庭的な環境の下で安心して暮らせるよう支援し、利用者の思いや意向の実現に努めている。食器洗いやおやつ作り、洗濯物たたみ等で役割や力の発揮が継続できるよう支援し、ブログ風の日々の記録、旧盆の帰宅、100歳の誕生祝い、他施設にいる家族との面会、買い物等、利用者の思いを受けとめ支援している。感染症の落ち着きに伴って外出支援にも力を注ぎ、日常的な散歩や屋外でのお茶会をはじめ、自宅や馴染みの場へのドライブ等を実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まったりし、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の尊厳を大切にし、暮らしやすい環境」を目指した理念の下、利用者の認知症による行動を理解し、一人ひとりの思いを受け止め、利用者のペースに合わせた支援に努めている。職員が意識し実践できるよう玄関や室内に掲示、会議資料に掲載することで理念を共有して実践につなげている。	開設時に作成された理念を継続して掲げ、職員は理念を念頭におき、共有に努めている。利用者の「尊厳を大切に」を基本とし、「第2のお家」として利用者が在宅時の暮らしに近い環境で自分らしく暮らせるよう支援している。「ただいま」や「おかえりなさい」等の挨拶を習慣化し、毎日散歩していた利用者には同行し、「家に帰りたい」、「100歳の誕生祝いをしたい」等の利用者の思いを家族との連携で実現する等、理念を反映した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつきあいとして小城2班に属しており、定期的実施される草刈り作業や定例会に管理者がGHを代表して参加している。又、八重瀬町社会福祉協議会よりボランティア募集の際には八重瀬町独居高齢者宅草刈り清掃に参加している。	地域在住の職員が多いことから、複数の区との関わりがあり、地域の行事等の情報も常時得ている。区の定例会や草刈り作業に職員が参加し、町の社会福祉協議会からの清掃依頼に事業所職員3名を含む法人職員10名が参加している。敬老会や運動会、十五夜等の地域行事が再開され、家族と参加する利用者がある。誕生会に民謡ショーのボランティア訪問を受け、利用者も歌・三線に合わせて一緒に歌ったり、カチャーシーの手踊りをする等楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新規利用の申し込みや電話での問い合わせ等で相談や社会資源の情報等を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に年6回開催している。利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、議事録はGH会議の議題として取り扱い、サービス向上に活かしている。	年6回定期的に運営推進会議を開催し、各構成メンバーが参加している。第1部は運営推進会議、第2部を「身体拘束適正化委員会」とし、第1部では、利用者の状況やケアの内容、事故・ヒヤリハット、利用者や家族等の要望に対する対応結果、諸行事や外出支援、地域交流の取り組み等を報告し、毎回写真付きの資料を添えて利用者の暮らしや表情も紹介している。委員との意見交換を行い、議事録も丁寧にまとめられている。外部評価結果や運営推進会議の議事録は玄関ロビー内で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では八重瀬町社会福祉課職員、地域包括支援センター職員が推進委員として参加している。GHときわ苑の実情やケアサービスの取り組みを報告、地域高齢者、地域福祉の動向等について情報提供や意見交換を行っている。	行政とは、認定の更新時や利用者のマイナンバーカードの受け取り支援時、町の各種行事等に参加する際に情報交換を行っている。町からの救急搬送についての研修案内には職員が参加している。世界アルツハイマー月間中の催しに協力し、事業所の紹介パネル展に取り組み、町の広報誌の掲載記事の依頼にも対応している。利用者からの法人内他施設への転居希望について、包括支援センターに相談をした事例がある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会や申し送り等で、身体拘束に対する再確認、意識、理解を深めている。身体拘束適正化委員会開催については、運営推進会議を活用し、事例報告や意見交換を行っている。個室、玄関は施錠はせず、センサー等(1名)で見守りを行っている。	身体拘束をしないケアについては、運営規程や重要事項説明書に明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。職員は方針を共有して身体拘束をしないケアを実践し、職員会議や勉強会等で理解を深め、ケアの振り返りを行っている。身体的拘束等の適正化の指針を整備し、「身体拘束適正化委員会」を定期的で開催して意見交換を行い、議事録を整備し、職員への周知も図っている。玄関は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	沖縄県GH協会による高齢者虐待防止に関する研修会に参加している。GH会議にて伝達講習を行い、管理者や職員が高齢者虐待防止関連法について学び、虐待防止に努めている。	虐待の防止について、職員は外部研修受講者からの伝達講習や職員会議、勉強会等を通して学習している。虐待の防止のための指針を整備し、職員全員で構成する虐待防止委員会を開催して議事録をまとめている。専任の担当者は計画作成担当者とし、定期的な研修を実施している。運営規程に虐待防止に関する事項を定めている。虐待防止のマニュアルが確認できなかったため、マニュアルの整備に期待したい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	沖縄県GH協会による身体拘束・高齢者虐待に関する研修会に参加、GH会議にて伝達講習を行い、権利擁護の基礎知識から関係制度について学ぶ機会を持っている。成年後見制度を利用している利用者とキーパーソンとの関わりの中で活用し、支援してきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族に対し、不安感を取り除きながら、契約書及び重要事項説明書を確認しながら説明し納得されています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や病院受診同行等の来苑時に積極的に声かけを行い、コミュニケーションを図りながら意見や要望の吸い上げに取り組んでいる。意見箱を設置しており、投書による意見、要望の受付も行っている。運営に関する利用者、家族等意見の反映の状況は運営推進会議で報告することで外部者へ表せる機会としている。	利用者とは日頃からコミュニケーションに努め、家族とは気兼ねなく意見や要望が出せるよう、Lineや電話による情報交換を行い、来訪時も声かけをして関係構築に努めている。「100歳の誕生祝いを居酒屋でやりたい」、「土地の相続に関する本人の印鑑登録証明の手続きがスムーズにできるよう協力してほしい」等に対応している。法人全体の面会自粛に対して家族から緩和の要請があり、玄関ロビーに面会場所を設置して対面できるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の申し送り等で、業務改善、必要物品購入についての意見、要望があれば即検討し、管理者へ伺いを立て、出来るだけ要望に合った処遇を行うようにしている。	職員は、日々の業務や申し送り等を通して意見や要望を提出している。冷蔵庫や居室のエアコンの不具合について、職員から修理・点検や買い替えの意見があり、対応している。利用者同志の関係性を心配した職員の発案で、ソファを1人掛けにしてゆっくりくつろげるように配慮したり、入居間もない利用者が、徐々に食事が増え、会話もするようになった変化を職員で共有してケアの工夫に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務態度を把握し、資格取得手当や昇給の配慮がある。労働基準法改正があった年次有給休暇についても、年5日以上は取得できている。夜勤手当のアップで、職員のやる気が出ている。	就業規則を整備し、職員にも周知している。各種休暇や女性の特別休暇、育児時間の取得、資格取得への支援、研修参加への調整・配慮等働きやすい環境づくりが法人全体でなされている。職員の健康診断は、年1回(夜勤者は年2回)の受診を管理者が促し、法人全体での管理も行っている。ハラスメント防止に向けた取り組みとして、研修は実施しているが、指針(または規程)の整備や体制づくり、就業規則への方針等の記載は確認できなかった。	ハラスメント対策に関する取り組みは令和4年4月より義務となっており、指針(または規程)の整備や体制づくり、相談窓口の設置、就業規則への方針や定義、懲戒等の追記が早急に望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加の際には、GH会議内で勉強会として伝達講習を行っている。又、利用者の疾患の詳細やケア方法について看護師からアドバイスを意見、資料提供を受けた勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県GH協会に加入しており、情報提供や連絡会、研修会の参加、他事業者との情報交換等の交流を図っている。管理者はGHくしばる運営推進委員として、相互訪問等の活動を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化等で、不安に陥らないように、最初の段階で寄り添っての話し相手、信頼関係を作り、不安解消、又は軽減できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して介護をゆだねられるように、入居前の段階より、連絡を密にとる事で信頼関係を築き、サービス開始後も気兼ねなく意見や要望が言える雰囲気作りをおこなっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が気付かない事がある場合など、ケアの必要性について助言を行いながら、より良い支援の方法と一緒に考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員や利用者のGHの出入りでは、「ただいま」「いただきます」「おかえりなさい」等、一緒に暮らしている雰囲気作りを意識しています。食後の食器やコップの拭き上げ、洗濯物たたみ、おやつ作りを職員と楽しみながら行い、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の定期受診時は職員と家族が分担して同行している。家族が来苑の際には面会を楽しんでもらえるよう声かけや支度を行っている。良好な関係を保てるように通話やメッセージ等のLINEを使用した交流を積極的に行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧盆の際に自宅まで職員が同行し、帰省して先祖に手を合わせる事が出来て喜ばれていた。在宅時から馴染みの美容室・理髪店で散髪を希望される際は、家族や職員が同行を行っています。ドライブや定期受診等で外出の際にも、出身地(自分の家)や馴染みの場所へ立ち寄り、喜ばれている。	利用者の馴染みの人や場、友人・知人関係、入居前の状況、趣味・嗜好等については利用者から直接聞いたり、面会時や受診時に家族からも聞いて把握している。行きつけの理髪店での散髪、受診の帰りに自宅や地元の公民館付近をドライブする等支援している。外出支援でも、懐かしいハーリー見物や馴染みのある「白銀堂」での初詣で、花見等に出かけている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個室に閉じこもらないように、利用者同士がおしゃべりやお茶を楽しみながらくつろげるように居間にはソファや個人用のイスを設置しています。又、誕生会、おやつ会、余暇活動時においても、個性を尊重しながら、利用者同士が交流を楽しめるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で医療ニーズが高くなり、GHへ復帰が困難になった場合は、母体施設(特養)や介護老人保健施設への紹介や施設が見つからない場合、居宅介護支援事業所へ情報や意見を求めるなど、利用者や家族が不安にならないよう継続して支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望や意思疎通が困難な利用者に対しては、声かけや話し相手をこまめにしながら本人の思いをくみ取るように努めています。	利用者1人ひとりの思いや意向は、日々の生活の中で聞いて把握し、職員は申し送りや職員会議等で共有している。「旧盆にはぜひ自宅に帰りたい」という利用者に行き、「パソコンでブログを始めたい」との要望には、家族の協力を得て写真や過去のブログ記事等を集め、日々の思いを書き記せるように支援している。ホームセンターでの腕時計の買い替え、他施設にいる夫との面会、食器洗いやおやつ作りでの力の発揮等、利用者の思いの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前には情報を収集し、出来るだけ本人に合った支援を考える。入居後も、本人との関わりの中で、今後の支援に活かせるような情報がないか把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理や心身の状態を把握する為、各種記録表や管理システムソフトを使用し、体調の変化や心身の状態、生活パターンの把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期受診時や面会等で家族が来苑の際に近況を報告したり、担当者会議用の意見照会や要望を確認している。受診の際は主治医からの意見を日毎の申し送りで報告し、情報共有している。毎月のGH会議では、利用者の現状について話し合い、本人、家族、介護、看護担当者の意見をまとめ介護計画作成に活かしている。	介護計画の作成については、サービス担当者会議に利用者や家族、計画作成担当者が参加し、家族等の意向を踏まえながら、職員の意見、看護師の助言等も含めて話し合い、計画の作成に反映している。洗濯物たたみや食後の片付け等の家事、趣味活動も計画に位置づけ支援している。長期目標は2年、短期目標は半年とし、半年ごとに1回モニタリングを実施している。定期的な通院治療が必要になった場合や術後の治療を要する場合等、随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理システムソフトを導入しており、日々の様子を日勤者、準夜勤者、深夜勤者が個別記録(ケース記録)として入出力情報を共有している。又、ケース記録は業務日誌や介護支援経過記録と連動しており、朝と夕の業務申し送りや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族から、土地建物相続手続きに必要な、利用者本人の印鑑証明登録にあたって協力依頼があった。管理者が八重瀬町住民保証人に立ち、住民登録が那覇市である家族による手続きに協力することができた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	9月9日～13日八重瀬町認知症普及啓発イベントパネル展にて八重瀬町役場1F町民交流ホールにGHときわ苑利用者の生活の様子の写真やパンフレットの展示を行った。地域資源の把握(町民交流、産業、防災等)と協働に努め、利用者が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援していきたい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族から納得が得られた在宅時からのかかりつけ医を継続している。専門科目での検査や治療が必要となった際には、かかりつけ医に紹介状作成を依頼し、家族または職員が受診に同行し適切な医療を受けられるよう支援している。	全員が馴染みのかかりつけ医を継続し、定期受診は1名以外は、基本家族が対応している。その際、事業所から直近の健康状態を家族へ口頭で情報提供を行ったり、約2週間分の情報提供書を家族に渡すこともある。内科以外の受診がある1名の利用者は施設職員が受診支援を行っている。年に1回の健康診査は家族の判断に任せている。感染症に関しては同法人内の医師により対応が行われている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝、夕にバイタルチェックを行い、通常時と変化があれば、看護師に確認し指示を受け、受診等が必要か、重度化させないよう早め早めの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関からの問い合わせに情報を提供し、本人、家族が不安にならないよう配慮、医療スタッフへ病状の確認、詳細な情報提供を行っている。退院前カンファレンス時や退院時の診療情報、入院要約等の説明を受ける時は、家族と一緒に参加するようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期入院により重度化した場合は、家族と話し合いを持ち、退院後の支援として、意向等聞きながら母体施設(特養)や、介護老人保健施設への紹介などを行うようにしています。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、入居時に指針で説明し同意書を得ている。同法人内の看護師が週に1回定期的に利用者の健康をチェックし、緊急時や24時間体制の対応も行われている。看取りの勉強会は実施しているが、現在、重度化や終末期の対応については同法人内の施設への案内を行っている。指針の見直しと体制づくりに期待したい。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送時は救急隊員へスムーズに本人の情報を提供できるように個人別カルテを使用し、先頭ページに家族・協力者緊急連絡先を記載している。利用者の急変や事故発生時は看護師が対応(夜間は電話対応)を行っている。表皮剥離やびらん、傷の処置については、看護師から消毒、処方軟膏の塗布、ガーゼ保護等の手技の指導を受け、実践している。	急変時・事故発生時の対応マニュアルが整備されている。緊急搬送に関する外部研修に参加している。普段から利用者の一日の状況を業務日誌に記載することで、職員へ周知している。事故発生後の検討会議の開催や議事録の作成が行われていない。	事故発生後の再発防止のための検討会議の開催や議事録の作成、職員への周知方法についての検討が望まれる。
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	火災通報装置、消火器、スプリンクラー、自動発電機の防災設備を備えている。防火避難訓練は年2回実施している。策定したBCP内容について勉強会を実施している。母体施設の連携及び支援体制、職員連絡先等を緊急時対応マニュアルとして整備している。感染症対策委員会の開催や研修及び訓練についてはGH会議の中で実施している。	各種災害対策マニュアルが整備されている。昼夜想定避難訓練は年に2回実施され、実施計画書に避難ルートや一時避難場所が記載され訓練時に活用できている。業務継続計画の指針を整備し、研修や訓練を実施して職員への周知が行われている。感染症対策委員会は1回開催し、指針の整備や研修、職員への周知もされている。備蓄は母体施設で保管しているが、事業所内で3日以上(できれば7日分)を管理することに期待したい。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応によって、本人の気持ちを損ねる時があるので、職員同士十分認識できるよう、申し送り等で周知させています。呼び捨て、～ちゃん付けで職員が利用者の名前を呼んでいる際は、その場で声かけし、介護理念の共有に努めている。	利用者の人格の尊重に関して介護理念を共有し、実施できるよう職員間で周知している。個人情報保護方針を定め、利用目的等も説明の上同意書を得ている。就業規則に職員の守秘義務が記載されている。プライバシー保護マニュアルは、個人情報の取り扱いのみが記載されている。特定した利用目的の追加等を含め、個人情報保護方針や利用目的、同意書の見直しを行うとともに、プライバシー保護マニュアルの見直しにも期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生会、カジマヤーお祝い会では食事や飲み物の選択肢を増やし希望する物を提供するように努めている。プレゼントは利用者の欲しいものを聴いて贈っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝が苦手な利用者に対しては、他の方と必ず一緒ではなく、無理せず時間をずらして食事を摂ってもらったりしている。個室へこもりがちな利用者に対して、本人の希望を尊重しながら声かけを行っている。新聞、雑誌を読む事が好きな方には好きな場所で提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を自分で選べる方へはなるべく本人が選んだ服を着てもらっているが、選んだ服の組み合わせが少しおかしい時は、本人の気分を損ねないようにコーディネートしてあげています。散髪は本人の希望などを確認しながら職員がボランティアで行ったり、美容室等を希望される際は、家族に同行をお願いしています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かいものは温かく、冷たいものは冷たいまま提供して「いつも美味しい」と好評である。食事前に職員と利用者が一緒に体操で体を動かし、「いただきます」の挨拶は利用者が担当している。食後は職員が洗い物をした後、コップや食器の拭きあげは、利用者が分担して行っており、職員は労いの言葉を伝えている。	朝食は事業所内で調理し提供している。昼食、夕食は主食のみ事業所で準備し、副食は同法人施設からの配食により提供されている。毎月法人内で給食委員会を開催し、食事内容や形態の見直し、行事食の調整を行っている。利用者は普段食器ふきを一緒に行い、行事の際に食材のカットをしたり、おやつ作りをしている。感染対策の観点から職員は利用者と一緒に食事を摂っていない。	感染症の落ち着きにに応じて、利用者と一緒に食事を楽しむ意義を再確認し、一緒に食事を考える検討や工夫が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録表に記入しケース記録として活用している。管理栄養士による献立作成にて栄養バランスの良い食事を提供している。きざみやミキサーなど形態を調整することも可能である。発熱時や水分量確保ため必要な際はアイソニックゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、習慣的に自力で出来る方、声掛けやセッティングで出来る方、一部介助の方、個々に応じたケアを行っている。夕食後の口腔ケア後の義歯はポリドントにつけて清潔を保っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録、確認し、排泄パターン把握に努めている。日中は、尿意・便意の訴え時や定期的にトイレ案内の声かけや介助を実施している。夜間は共用トイレ、居室に設置されたポータブルトイレ使用時に確認や定期尿パット交換を行い対応している。	排泄チェック表を用いて、ケア記録を記載し利用者の排泄パターンを確認している。7人が自力歩行が可能で、日中は全員トイレでの排泄支援を行っている。夜間はポータブルトイレを使用する方もいる。車いすの利用者2人のうち1人は夜間はおむつを使用し、日中はトイレでの排泄を支援している。利用者の動作や表情を確認し、失禁を防止できるように対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の利用者がおり、日々の水分量の確保、管理栄養士によるバランスの良い食事、活動や運動、看護師と連携し排泄状況を記録、確認しています。最終的には処方便秘薬で対応しています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本決めてはいますが、病院受診や外出のタイミングで入浴したり、散髪後の入浴、排泄失敗時の入浴等、臨機応変に対応している。入浴は同性介護が望ましいが、職員体制上難しく、本人、家族の了解により対応しています。入浴拒否がある場合は、声かけの工夫や時間をずらして声かけし対応している。	週に2回午前中を基本として入浴支援を行っている。受診に合わせて時間を変更する場合もある。利用者の好みに合わせて家族がシャンプーやリンスを購入して届け、使用している。入浴拒否の方は時間を変更したり、利用者のタイミングを見て声かけし入浴につなげている。同性介助は職員の勤務体制上困難であるため行っていないが、見守りで対応する等利用者の希望に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり全室個室であり、誰にも気兼ねなく過ごすことができる。個室には日差しを遮るカーテン、冷暖房の完備、洗面所、クローゼット、電動式ギャッジベッドが設置されている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関、薬局からの薬の説明書を受診毎にファイルして職員全員が薬の効能、注意事項、副作用について確認を行っている。薬の変更がある場合は、都度申し送りし情報共有している。服薬管理マニュアルを活用して誤薬事故防止に努めている。	服薬支援に関しては、「誤薬防止マニュアル」が作成されている。薬の受け取り、保管、配薬、与薬等の支援やその確認は、職員のシフト毎の業務に合わせてケア記録で確認できるようにしている。減薬に関しては受診後に主治医から、情報提供書の返書があり確認している。誤薬の発生後は、事故報告書を作成し、再発防止の検討会議を数名で実施し、職員への周知は口頭で行っている。服薬の具体的な手順についてはシフト毎の業務内容への記載となっているため、服薬支援マニュアルの見直し、及び検討会議の議事録の整備に期待したい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	母の日、父の日、敬老会、誕生会、クリスマス望年会の開催や職員と展示作品を協同制作することで楽しみごとや気分転換となるように支援を行っている。食後の食器やコップの拭き上げ、洗濯物たたみを担当する利用者は、張り合いや自信が持っているとされる。天気の良い日は苑庭に集まって日光浴、日陰での運動、お茶を楽しむ等の屋外活動や個別でGH周辺の散歩に付き添う支援も行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は、敷地内を散歩したり、玄関前のベンチで談笑したり、島バナナの収穫ができる菜園で収穫を楽しみながら外気浴をしている。少人数(2名~3名ずつ)で出掛け、自宅訪問や南部一周ドライブを楽しみ、気分転換ができるよう支援を行っている。	日常的に事業所周辺を散歩する利用者がいる。屋外で車いすの利用者も一緒に日光浴やお茶会をしている。ハリー一見学や花見等を支援している。家族の意向により自宅での祝い事等に職員が送迎する等対応が行われている。敷地内にある菜園でできたバナナやパパイアの収穫をすることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に家族管理されていて、物品購入など必要時には家族へ依頼しています。現在、お金を持たないことに不安がある利用者はいませんが、施設の利用料を心配の方がいらして、介護保険や家族が支払いをしていることを説明することで安心されている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和7年 1月7日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望がある利用者に対しては、必要時家族へ電話を繋ぎ本人の不安解消に努めています。LINE登録されている家族の方とメッセージやビデオ通話、画像送信等の交流を行っている。年賀状は毎年、利用者が一筆し家族に送っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は落ち着いた雰囲気、居間は利用者と職員と一緒に心地よく過ごせる空間になっている。トイレの場所が一目でわかるように矢印の案内表示プレートを表示している。季節感が感じられるような装飾や作品等を飾り季節感を採り入れている。	玄関や屋外にイスやベンチが設置されている。玄関内や共用空間には手作りの作品や民芸品等が飾られ、カレンダーを掲示し、新聞等も置かれている。畳間があり時々利用者が食後の休憩時に使用している。季節感を取り入れた飾りが施されている。トイレの場所は案内プレートがありわかりやすくなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたいという利用者に対しては、必ず一緒にするのではなく、本人の居心地のいい場所で過ごせている。居間では、テレビ、カラオケ、沖縄芝居観賞(YOUTUBE)、レク活動等を楽しみ、利用者と職員と一緒にくつろげるスペースになっている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、洗面台が設置されていて、利用者、家族は満足されている様子。又、壁などには、各居室担当者が、本人に確認しながら写真や飾りつけを行っている。居室の手すりも、個々にあった配置をしている。	居室は、すべて花の名前を表示している。事業所によりベッドやタンス、洗面台、掲示用のコルクボード等が備え付けられている。家族の写真等が飾られ、寝具やテレビ、チェスト等を持ち込んでいる利用者もいる。ナースコールが設置されている。転倒防止のため1名はセンサーを設置し、職員が対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉にはネームシールを貼りわかりやすくしている。居間や食堂は明るいLED照明を設置している。トイレの場所は矢印の案内表示プレートを表示しており、ご自身でトイレを探すことができる。		